

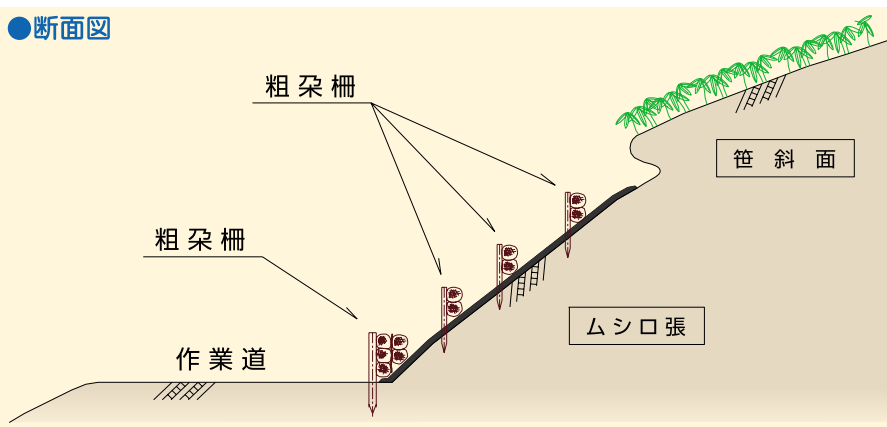
達古武地域における平成17年度の調査・検討結果について

平成17年度の調査結果と検討結果についての説明が事務局より行われた。また、釧路湿原達古武地域自然再生事業実施計画が、第5回小委員会及び第9回協議会での意見を踏まえ修正の後、2月28日付けで主務大臣並びに知事宛てに提出された旨及び修正された内容の説明があった。

作業道における土砂流出防止対策について

釧路湿原を囲む丘陵地において、作業道の裸地法面に地域資源として発生するカラマツ、ヤナギを活用した粗朶柵を設置した。

●断面図



●作業道における土砂流出防止対策



写真1 市民参加による粗朶作り



写真2 完成した粗朶



写真3 設置前の状況



写真4 粗朶柵設置状況

このようなことが話し合われました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 土砂流出防止対策と粗朶柵設置で、試験地内に出た間伐材を積極的に使い、外部から資材を持ち込まず現地の物で循環させるのは、非常に大事な取り組みである。
- 法面の土砂流出防止対策は、大量にある間伐したカラマツの枝条を粗朶として用いた。循環型の自然再生を想定し、今回試験的に実施した。
- 作業道の雨裂対策として、例えばゴムマットを10cm位の丸太などに挟み、釘などで固定したものであれば、簡単に人力で設置することが出来る。ゴムマットは車両が上を通過しても元に戻るため、そのような箇所を多数作ることで、非常に効果がある。
- 路面の雨裂は法面の施工前から出来ており降雨後よく発生する。この作業道は将来的に維持管理用として使うので来年度は道路横に粗朶の束をたくさん入れ、水が路面に流れ出ない処理を実施する。
- ササを抑制する方法や、土砂流出防止等色々なノウハウを道有林、国有林の方も持っている。現地

視察形式で会議を行い、達古武や雷別で利用出来る技術を勉強したい。

- 土砂流出防止策のモニタリングとして、土砂堆積量の測定などが検討されているが、緑化が進む事により、土砂流出が減少することは明らかなため、モニタリングの必要性は低いのではないかと。

●達古武での崖崩れの原因は何か。

- 林道が上部斜面の集水域を変え、集水面積以上の水を集めてしまう事と、切土施工により元々あった水脈を断ってしまう事で、斜面の崩壊が起こりやすくなる。また、伐採後10年や15年で根が腐り、植えた木もまだ支持力を持っていないときには最もよく崩れる。ゼロ字谷と呼ばれる元々お椀型の地形の源頭で、伏流してきた水が湧き出てくる場所でも崩壊が進む。これはどちらかという自然的要因である。

- 作業道を切ると崩壊の原因になるケースはある。大事なのは作業道を作った時にキチンと排水処理をし、水が集中しない対策をとること。昔作って放置された作業道が緑化されておらず崩壊しているケースはよくある。

第6回森林再生小委員会 [出席者名簿(敬称略、五十音順)]

●個人

上野 義勝
宇野 裕之 [北海道環境科学研究センター 自然環境部 道東地区野生生物室]
白金 巖
高嶋 八千代 [北海道教育大学釧路校 非常勤講師]
谷口 直文
永瀬 知志
中村 太士 [北海道大学大学院 農学研究科 教授]

●団体

王子製紙株式会社 [三浦 務]
釧路自然保護協会 [会長 高山 末吉]
NPO法人 くしろ・わっと [佐藤 真紀]
釧路造園建設業協会 [大友 淳]
国際ソロブチミスト釧路 [理事 浪岡 敬子]
さっぽろ自然調査館 [代表 渡辺 修]
特定非営利活動法人 トラストサルン釧路 [杉沢 拓男]

●オブザーバー

標茶町森林組合 [成田 勝利]

●関係行政機関

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課 課長 大串 弘哉]
環境省 釧路自然環境事務所 [国立公園・保全整備課長 森川 久]
林野庁 北海道森林管理局 計画部指導普及課 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター [指導普及課長 後藤 昭由]
北海道 釧路支庁 [林務課長 大堀 尚己]
釧路市 [生活環境課環境対策係長 佐々木 俊司]
鶴居村 [建設課長補佐 品田 光四郎]

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.kushiro-wetland.jp/>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAX・Eメールにて事務局まで御連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839

[E-mail] info@kushiro-wetland.jp

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています